41　ナギ

名前の由来

「凪」は「風が止まり穏やかな状態」という意味から「どのような時でも穏やかに、そして平和に過ごしてほしい」という願いが込められています。

ナギの特徴

高さ20m、幹径50～80cmになる常緑針葉高木。 樹皮は鱗片状にはがれます。 葉は対生する単葉で、長さ4～8cm、幅1～3cmの卵形～長楕円状披針形となり、厚みと光沢があります。

その他

本州以南の温暖地に分布し、高さ２０ｍにも達するほど生長する常緑高木です。 古来より縁起の良い植物とされています。日本各地の神社等にてご神木とされている。

ナギ

和名	梛木	41
別名		

分類				
	科（APG分類）	マキ科	属	ナギ属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・ミズアオイ科の「コナギ」に姿がにていることから名付けられた。
・高木に成長することと、読み方が波のない穏やかな海のことをさす「凪」に通じるとされ

樹木の特徴

・常緑高木。比較的温暖な場所に自生する。雌雄異株、高さは20mほどになる。
・葉の形は楕円状披針形で、針葉樹であるが広葉樹のような葉型である。若枝は緑色で葉を十字対生につけ、それがやや歪んで2裂に並んだようになる。
・開花期5～6月、雌雄の花とも前年枝の葉腋につき、雄花は円柱形で3～4個集まって付く（束生）。雌花は鱗片が数個あり1～2個の胚珠がつく。
受粉は風媒花。
・雌花の肥大した鱗片が核果状の種子全体を包む。重力散布される。

用途・その他

・高木に成長することと、読み方が波のない穏やかな海のことをさす「凪」に通じるとされ特に船乗りに信仰されて葉を災難除けのお守り袋や鏡の裏などに入れる習慣がある。
・縦方向に引っ張っても容易に切れないことから、葉や実が夫婦円満や縁結びのお守りとしても使われている。

・熊野神社や熊野三山系の神社では神木とされ、雌雄一対が参道に植えられている。

作成年月日　2021，10，01